

2017年11月26日(日)朝10:10～  
11月第4共同主日礼拝説教

主の降誕前第5・収穫感謝日  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：天に宝を積む生活

聖書：マルコ10章17～22節〈口語訳〉

新約聖書68頁

マルコ10章17～22節〈新共同訳〉

新約聖書81頁

マルコ10章17～22節

〈新改訳第3版〉

新約聖書86頁

マルコ10章17～22節

〈塚本訳〉

新約聖書40頁

(全節を朗読)

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き  
によって主の弟子たちは、主の名  
による神の罪からの救いを宣べ  
伝えたように、私たちも、福音を  
伝えたい。

序論；

◇**神の子イエス様**は、神に**生きる権威**ἐξουσίαを神のしもべとして示し、**神の国の福音生活**を啓示されました。

◇**神の子イエス様**は、子供たちを祝福し、「**神の国の福音を受け入れる者でなければ、決してそこ(神の国)に入ることはできない**」(マルコ10:16)と、語っておられました。

◇その**神の子イエス様**に**大資産家の人**(10:22)が、「**神の国に入る方法**」を聞きにやってきたのです。

⇒「**神の国の福音を受け入れる者でなければ、決してそこ(神の国)に入ることはできない**」との**神の子イエス様のみことば**を聞いていたのではないかと思われませんが、「**大資産家の人の耳**」には、入っていませんでした。

◇**マタイ6:21**に、「**宝のある所にあなたの心もある**」とあり、**ルカ12:34**も、「**あなた達**」とあります、同じ**みことば**が記録されています。

⇒**マタイ19:22**塚本訳で、「**大資産家**」、**ルカ18:23**塚本訳で、「**非常な金持**」と記録されています。

本論；

◇本日は、マルコの福音書10章17～22節からの使信に思い・心<sub>vous</sub>をとめます。

◆マルコ10章17～22節；神の子イエス様にとっても、大資産家の人にとっても、永遠のいのちは宝(宝の箱、10:21)でした。

◇10:17～22節；塚本訳；◆金持と神の国

「17 旅行に出ようとされると、ひとりの人が駆けてきて、ひざまずいて尋ねた、「善い先生、永遠の命をいただくには、何をすればよいでしょうか。」

18 イエスは言われた、「なぜわたしを『善い』と言うのか。神お一人のほかに、だれも善い者はない。

19 (すべきことは神の掟を守ることだけで、) 掟はあなたが知っている通り。——『殺してはならない、姦淫をしてはならない、盗んではならない、偽りの証言をしてはならない、』奪い取ってはならない、『父と母とを敬え。』(ただこれだけである。)」

20 その人が言った、「先生、それならみんな若い時から守っております。」

21 イエスは彼をじっと見て、かわいく思って言われた、「(よく守った。だが)一つ足りない。家に帰って、持っているものをみな売って、(その金を)貧乏な人に施しなさい。そうすれば天に宝を積むことができる。それから来て、わたしの弟子になりなさい。」

22 彼はこの言葉に顔をくもらせ、悲しそうにして立ち去った。大資産家であったのである。」と、マルコは、神の子イエス様のみことばを記録しています。

◇17節;大資産家の人は、神の子イエス様の前に駆けてきて、ひざまずいて尋ね、「善い先生、永遠の命をいただくには、何をすればよいでしょうか」と聞いています。

⇒「大資産家の人」の質問には、「善い先生、永遠の命をいただくには、何をすればよいでしょうか」と、2つの課題が見えます。

⇒1つは、神の子イエス様を「善い」先生と呼んだこと、2つ目は、「永遠の命をいただくには、何をすればよいでしょうか」との問いです。

⇒彼は、自分で何かをして、「永遠のいのち(宝・宝の箱)・神の国」を獲得しようとしたのです。

⇒「**神の国の福音を受け入れる者でなければ、決してそこ(神の国)に入ることはできない**」とのマルコ10:15の**神の子イエス様のみことば**と、相容れない事柄でした。

◇18～19節；**神の子イエス様**は、**大資産家**の人に、「**なぜわたしを『善い』と言うのか。神お一人のほかに、だれも善い者はない**」、「**(すべきことは神の掟を守ることだけで、)掟はあなたが知っている通り。——『殺してはならない、姦淫をしてはならない、盗んではならない、偽りの証言をしてはならない、』奪い取ってはならない、『父と母とを敬え。』(ただこれだけである。)**」と、少し、**大資産家**の人の質問の揚げ足をとるように語り、モーセの10誡の**第4～第10誡**を守るように命じられた。これは、**レビ記19:18**では10の誡めを語って後、「**あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい**」と、語られているのです。

⇒「**大資産家の人**」は、既に**神の子イエス様**を愛し、求めていましたので、モーセの10誡の**第1～第3誡**を省き、彼が、「**大資産**」よりも、**弱い人々**を隣人として愛せよと、主は語った。

◇20節；「大資産家の人」は、「先生、それならみんな若い時から守っております」と、ユダヤ人なら当然と、**律法順守を主張**したのです。レビ記19:18は、思い浮かびません。

⇒「大資産家の人」が、「**神の国の福音を受け入れる者でなければ、決してそこ(神の国)に入ることはできない**」との「**神の国の福音**」が、「**受け入れる**」ことによって**与えられる**ことに気づいていませんでした。ユダヤ人たちが追及して来た律法順守の哲理から離れることができなかつた。**隣人愛は欠如**していました。

◇21節；**神の子イエス様**は、**大資産家の人**を「**じっと見て、かわいく思って**」、「**(よく守った。だが)一つ足りない。家に帰って、持っているものをみな売って、(その金を)貧乏な人に施しなさい。そうすれば天に宝を積むことができる。それから来て、わたしの弟子になりなさい**」と、「**言われた**」のです。

⇒「**彼をじっと見て、かわいく思って**」の「**かわいく**」は、「**(心から)愛して**」と「**訳せることば**」なのです。「**大資産**」に固執せず、「**わたしの弟子**」になってほしいと、問いかけておられます。

◇21節；「大資産家の人」は、神の子イエス様の愛のみことばが理解できず、「この言葉に顔をくもらせ、悲しそうにして立ち去った。大資産家であったのである」と、マルコは、「大資産家の人」が、「わたしの弟子」になるには、「大資産」に心が向いた状態では、「神の永遠のいのち」、すなわち、「神の国」に共に生きることが困難であることを愛をもって、問いかけて下さっていたのです。

⇒これは、ローマ3:10~12のパウロのことばと全く同じ使信です、塚本訳「10（聖書に）こう書いてある。——『正しい人がいない、一人もいない、11 物のわかる人がいない、神をさがし求める人がいない。12 だれもかれも迷って、みんな墮落してしまった。善をする人がいない、ただの一人もいない。』」と、神の前に正しいと認められる人は、誠実な行いによってではなく、神への信仰、神への信頼のみ、「大資産家の人」にとって最も大事なことは、「神の永遠のいのち」が、神の子イエス様との神信仰・信頼による愛の結びつき・交わりであると、気づくことでした。

⇒**OS師**が、語っておられますように、「**大資産**」をささげることでなく、**神の子イエス様**に徹底的に信頼し、信仰して、礼拝と讃美をささげることなのです。

⇒モーセの律法・10誡を完璧に守れるのは、**神の子イエス様**をほかにして、だれもいないのです、自己誠実は、**神信仰**を妨げるだけでなく、**神の子イエス様の愛・彼をじっと見て、かわいく思って下さった真実な思い**に盲目になってしまうのです。

⇒**OS師**は、2000年の初め、サリン事件を起こした麻原彰晃の主張した仏教も、キリスト教も、人が出家する時には、あらゆる持ち物うを全てを献げるお布施としていることを「**大資産家の人**」をささげる相手は、麻原彰晃ではないことを指摘し、**神の子イエス様の思い**を理解できないことに警告しておられます。

⇒献金も大事ですが、それ以上に**大事**なのは、**神の子イエス様**を心から愛し、**信頼・信仰、礼拝、讃美**をささげていることなのです。

⇒**HS師**は、**キリスト者**で、**医師**でもあり、知恵で、「**時間**」を「**いのち**」に置きかえました。



## 結論；

◇**神の子イエス様**は、子供たちを祝福し、「**神の国の福音を受け入れる者でなければ、決してそこ(神の国)に入ることはできない**」(マルコ 10:16)と、語っておられました。

◇その**神の子イエス様**に**大資産家の人**(10:22)が、「**神の国に入る方法**」を聞きにやってきたのです。

⇒「**神の国の福音を受け入れる者でなければ、決してそこ(神の国)に入ることはできない**」との**神の子イエス様のみことば**を聞いていたのではないかと思われませんが、「**大資産家の人の耳**」には、入っていませんでした。

◇**マタイ6:21**に、「**宝のある所にあなたの心もある**」とあり、**ルカ12:34**も、ほぼ同じです。

⇒**マタイ19:22**塚本訳で、「**大資産家**」、**ルカ18:23**塚本訳では、「**非常な金持**」です。

⇒**神礼拝**を**神の子イエス様**への**愛、信頼・信仰の心**をもって、塚本訳「**常に喜べ、絶え間なく祈れ、(幸不幸、)何事についても(神に)感謝せよ。これ(ら三つ)は神がキリスト・イエスに於て君達に求め給うものである。**」と告白！